

令和8年度 学校経営方針

船橋市立湊中学校

1 校訓『自学 自律 自励』

- ・自学:自ら進んで学ぶ…自学を心がけよう
- ・自律:自らを律する…自分の生活を反省し、改善する力を身につけよう
- ・自励:自分で自分を励ますところ…困難に立ち向かう勇気を持とう



2 学校教育目標

Change Chance Challenge ～変化に対応し、機会をとらえ、挑戦する生徒の育成～

3 経営の方針 「教職員のやりがい・幸福度アップ」＝子どもの笑顔

- 和衷協同 「心を一つにして協力し合い、子どもたちと関わる教職員集団」
 - 率先垂範 「子どもたちに、自ら進んで行動を示せる教職員集団」
 - 感動共有 「子どもたちと共に活動し、感動を共有できる教職員集団」
- 【めざす教師像】

4 経営の重点 かかわる」ことを柱とした学校づくりをめざす

- 自己存在感の感受
「互いに認め合い、自己存在感を実感させ、自己肯定感や自己有用感を育成する」(自励)
- 共感的な人間関係の育成
「自他ともに思いやりの心をもって、共に創造できる学年・学級づくりをする」(自励)
- 自己決定の場の提供
「自ら考え、選択し、意見を述べ、決定する場をつくる」(自学)
- 安全・安心な風土の醸成
「自らを律し、個性を認め合い、全ての生徒が安心して学校生活を送れるようにする」(自律)

【本年度の努力目標】

学校教育目標を達成するために《誰一人取り残さない教育実現のために》を経営の核とし、以下の事項を努力目標とする。

1 変化を見逃さず、「対話」を重視した寄り添う指導に努める。

- 教師と生徒との人間的なふれあいを基盤として、生徒理解に基づく生徒指導(生徒を常にわかろうとする姿勢で関わり続ける)を展開する。
- 『湊中学校の生活』に基づき、生徒自らが主体的に考え、安全で落ち着いた学校づくりのための、積極的な生徒指導を進める。
 - ①すべての教師が「温かさ」と「厳しさ」のもとに、すべての生徒を指導する。
 - ②生徒指導体制・相談体制を機能化し、迅速な情報の共有と対応を図る。
 - ③好ましい言語環境づくりに努める。

2 機会をとらえることができる「学びの魅力」がある授業づくりに努める。

- 自ら学ぶ力と基礎学力の向上を図る学習指導
 - ①学習環境を整えると共に、授業規律の確立を図る。
 - ②学習習慣を身に付けさせるために、予習、復習等家庭学習の定着を図る。
 - ③生徒が「自ら学び、考える」よう学習課題を明確にし、「わかる・できる喜び」を味わえるような授業を展開できるように、学習内容や方法を工夫する。

3 子どもが「考動」し、挑戦できる特別活動の充実に努める。

○体験的活動を重視した特別活動

- ①ボランティア活動を積極的に推進する。
- ②一人一人の良さや持味を生かした行事の創造に努める。
- ③自主的実践態度や協動的態度を育て、人間としてのより良い生き方を考えさせる。

4 開かれた学校、家庭・地域社会との連携

○学校・地域の信頼を深めるよう、連携した活動の機会を大切にしていく。

- ①積極的な教育情報の発信及び交換に努める。
- ②地域コーディネーターの積極的・効果的活用に努める。(コミュニティ・スクールの充実)

5 研究・研修

※令和8年度から3年間、「小中連携教育」の研究学校指定を受けたことで、
尚一層の研究を深める機会としたい。

○めざす教師像を求めて、研修会への積極的な参加、講師を招聘しての授業研究を核とした校内研修の充実に図る。

○子ども、保護者、地域から信頼される教師をめざして、責任感のある行動、風通しの良い職場環境の構築を図る。→モラルアップ委員会の機能的・効果的な運用に努める。

○不祥事根絶への高い意識の持続を図る。(情報管理、体罰・セクハラ 等)

6 働き方改革

○時間の効果的活用(タイムパフォーマンス向上)を管理する。→ 残業申請書の提出推進

○ワークライフバランスを調整する。→ HappyDay の設定(ホワイトボードの活用)促進

○不易と流行(取捨選択)を意識した教育活動を考慮する。→ 地域交流の充実

【教職員の基本姿勢】

「人は好きな人の言うことは聞く」

自分にとって、耳の痛い話でも好きな人に言われると素直に受けとることができるものです。

当たり前ですが、教職員同士・生徒・保護者・地域の皆様

そして世界の人々も好きになろう！ * 多様性の視点

・「親愛の情」「情熱」を持って、生徒・保護者等と関わること。

・生徒指導の機能である、自己存在感・共感的人間関係・自己決定・安全安心な風土を常に意識し、生徒とともに過ごす時間を意図的に多くつくることで、生徒理解と人間関係の構築に努めること。

・「目ざとく」「鋭く」「感性」を持って人と関わり、「褒める・認める・励ます」こと。

しかし、「ダメ」なものは「ダメ」と毅然として指導すること。

・授業を大切に、常に研修し、実践していくことは言うまでもない。そして、これを教えることは、生徒のためになっているか、フィードバックすること。

・「学校はチーム・プレー」一人で抱え込まないこと。

互いに声をかけあい、報連相+確の徹底 * 意思の疎通・普段からの会話が大切

・たとえ意見が違っていても、その人まで嫌いになってはいけない。

・社会人・常識人である教職員集団

・教師は常に研修に励み、豊かな専門性を身につけ、教育実践にあたり、生徒・保護者・地域とともに「湊中 3つのC」の更なる進展に努めること。